

美術科学習指導案

日 時：平成30年11月13日（火）第5校時
場 所：南舎1階 美術室
学 級：2年B組（男子20人 女子19人）
授業者：土屋 孝政

1 題材における生徒の実態 題材名「笑顔をつくろう！ランチョンマット」

2年生の1学期には、「自分だけの鉛筆立て」という題材において、焼成粘土で鉛筆立てを制作した。日常品の鑑賞を通してデザインの役割は、生活を楽しくしたり美しくしたりすること、また美しさと使いやすさを兼ね備えた機能美という考え方があることを学んだ。その上で自分が生活の中で使うことを目的として主題を考え、自分なりの視点でデザインを追究し制作していった。

本題材では、鉛筆立てで学んだことから発展させ、自分が使う目的から他者が使うことを目的として学習していく。職場体験でお世話になる老人介護施設「万年青苑」の方をデザインの力で笑顔にするという目的をもたせ、ランチョンマットを制作する。その中で特定の人が喜ぶデザインではなく、客観的な視点でより多くの人が喜ぶデザインを考えていく。

恵那市には、「中山道広重美術館」があり、毎年版画コンクールが開催されている。本校の生徒も小学校の時から版画に触れ、一版単色の版画を制作している。本題材では、一版単色から発展させ、広重の浮世絵に関連づけてゴム印による多色多版で制作を行う。また、広重の作品を鑑賞することを通して、その作品の中にある構図の工夫や調和のとれた構成などを学び取り制作に生かしていく。

2 研究の主張点

（1）研究内容1＜「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫＞

題材を貫く課題を「美術の力をつかって、より多くのお年寄りの方が笑顔になるランチョンマットをつくろう」とし制作していく。美術の力とは、1年生で学んだ構成美や構図の効果、配色の効果である。また、本題材では、多版多色の美しさや調和のとれた構成について鑑賞を通して学んでいく。そのような力をつかい、特定の方が喜ぶデザインではなく、客観的な視点から性別や一部の嗜好に偏ることのないデザインを目指す。その中で生活や社会の中での美術の役割を学ばせたい。

題材の最後には、完成したランチョンマットを使用したお年寄りの感想を聞き、制作した作品が他者に共感された喜びを感じさせていく。

（2）研究内容2＜一人一人が課題解決できる手立ての工夫＞

①一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫

本題材は、他者を意識したデザインを目的としている。そこで生活班を1つの「デザイン会社」とし、会社ごとにデザインのテーマを決め、話し合いながら制作を進めていく。自分一人の感覚では、多角的なデザインは生まれにくい。仲間からアドバイスや助言をもらいながらより多くの人にとって心地の良いデザインを考えていく。

本時では、各会社のテーマにそって決めた各自の主題をもとにつくった試作品を、批評し合う時間である。歌川広重の鑑賞で身に付けた大胆な構図や調和の取れた美しい構図という視点や1年生の学習から、構図の効果や構成美、また配色の効果という視点で、より良いデザインにするために意見を交流していく。

②学びの状況を実感できる授業終末の工夫

授業の終末に、互いの作品について意見を交流したことを通して、見方や考え方が深まったことを実感させたい。そこで、試作品に仲間からもらった意見で変更したところを描き加えたり、色や位置についての意見を書き込んだりして、デザインの深まりを視覚的に分かるようにしていく。それを全体で交流することで自らの伸びを実感させていく。

3 題材構想図 (全16時間) 「笑顔をつくろう! ランチョンマット」 ●:「習得」 ★:「活用・探究」

【題材の目標】地域のお年寄りを笑顔にするランチョンマットを制作することを通して、主題をもとに多色多版の表現の特性を生かしながら、調和のとれた色と形を追究し、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

【他の題材との繋がり】

1年生：平面構成①単純化や省略②配色の効果③構成美 鑑賞④安定・不安・リズム・落ち着き
2年生：鉛筆立て⑤生活の中のデザイン 鑑賞⑥繰り返される形

単元を貫く課題
配色や構図の効果の見方・考え方を造形的視点で捉え、自分としてのお年寄りの方が笑顔になるランチョンマットをつくらう

第1時【関心・意欲・態度】★⑤生活の中のデザイン

美術の力をつけて、より多くのお年寄りの方が笑顔になるランチョンマットをつくるために質問する内容を考えよう。

第2時【発想や構想の能力】

質問の答えを読み合って、グループでデザインのテーマを決めよう。

第3時【発想や構想の能力】

グループで決めたテーマをもとにモチーフを決めよう。

第4時●★②配色の効果【創造的な技能】【発想や構想の能力】

広重の浮世絵を鑑賞して、多版多色の仕組みや効果を知り、色の重なりを意識しながら主題と印の下絵を考えよう。

第5時★①単純化や省略【発想や構想の能力】

主題をもとに、モチーフを単純化・省略・強調しながら印のアイデアスケッチをしよう。

第6時●【創造的な技能】

転写の方法を知り、下絵を正確にゴム印に写そう。

第7時【創造的な技能】

下絵に合わせて、彫りやすい刀を選びながら印を彫ろう。

第8・9時●★②配色の効果③構成美 鑑賞④安定・不安・リズム・落ち着き

【発想や構想の能力】【創造的な技能】

主題が表れるように工夫しながら試作品をつくろう。

第10時 本時★③構成美④安定・不安・リズム・落ち着き⑥繰り返される形

【発想や構想の能力】

テーマや主題をもとに試作品を見合ってアドバイスしよう。

第11・12時★【発想や構想の能力】【創造的な技能】

試作品の反省をもとにお年寄りが笑顔になるランチョンマットを完成させよう。

第13時【関心・意欲・態度】【鑑賞の能力】

お年寄りからの感想を読んで、美術仲間の作品を認め合おう。

第14時【鑑賞の能力】

美術館で本物の広重の作品を鑑賞し、広重の思いを知ろう。

【知識及び技能】

多色多版の仕組みを理解し、重色の効果をつかい表現することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

使う人の思いから主題を設定し、配色・構成等を考えながら調和のとれた画面を発想・構想することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

美術が生活を豊かで楽しいものになっていることに気づき、これからの生活に生かしていく意欲を育む。

